



協会に入るメリットを前面にした事業に意欲を示した北川社長①と、合同懇親会でいさつする加納会長

国スボ・障スボの事業受託に意欲

まだ回復しないと思いま
す。ただ県民割が行わ
れ、ブロック割も動き始

「トラベルメイトサービス参画いただいた」などと報告。「協会に入つて良かったと思つてもらえるよう、皆さんにどのように事業を推進したい」と話した。

ス(75会員)の第10回定期総会も同日を開かれました。株式会社と同様に25年開催予定の国・人・スポーツの取り扱いに向け、県などの準備委員会との

NOON年度事業について
は、25年に滋賀県で
開催される国スポ（国民
スポーツ大会）・障スポ
連携強化に努めるとした
ほか、昨年度に続き会費
を1万円減額するなどな
どを決めた。

(全国障害者スポーツ大
会)の関連事業を大手旅
行会社とJVを組んで受
注できるよう準備を始め
ることも決めた。

（会）の関連事業を大手旅行会社とのJVを組んで受注できるよう準備を始めることも決めた。

取り組みを進め、一社
(一般社団法人滋賀県旅
行業協会)とともに滋賀
県の『安全安心な観光バ
スツアーア助成事業』を受
託しました。コロナ前の
6割ほどでしたが、主軸
事業のお買い物ツアーニ
は600人に参加いただ
算入を動かした。
総会後、全旅西日本支
社の池上聰支社長が会員
サポート事業を説明。今
年4月から始めたイベン
ト受付管理・精算システム
ム「全旅マルっとペイ」
について、修学旅行の要
注、催行を例にシステム

一般社団法人滋賀県教育業協会（加納義之会）

加納会長は「この2年
数ヶ月、本当に厳しい状
況で事業を続けてこられ
た皆さん。感染対策をし
ながら経済を回していく
ウイズコロナの新しい時
代に変わっていきます。
旅行のニーズも代わり、
我々は対応していくなかで
ればなりません。経済の
回復基調が本格化し、旅
行需要の回復を期待した
い」と述べた。

来賓の滋賀県商工観光労働部觀光振興局シガリズム推進室の辻良介室長は、三日月大造知事のメッセージを代読。今年3月に策定したシガリズム観光振興ビジョンについて、「滋賀ならではツーリズムとして地域の観光資源を磨き上げ、選ばれて」と語った。滋賀、農民が誇れる滋賀県を実現し、観光需要を回復を図るべくしっかりと取り組んでいきたい」と話した。